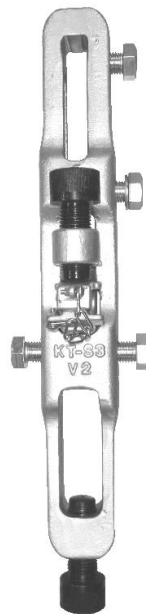


建方エース
TATEKATA ACE

取扱説明書

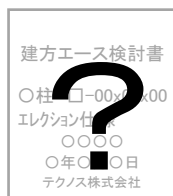
Operation Manual



安全上のご注意（ご使用前に必ずお読みください）

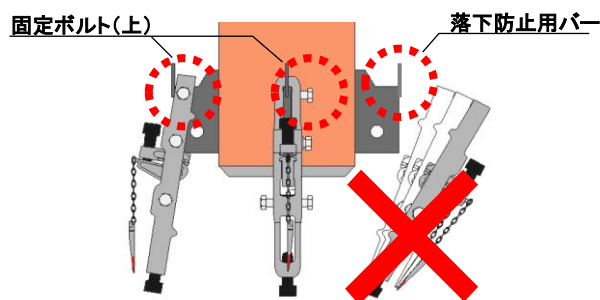
- 建方エースをご使用になる方や他の人への危害、装置破損防止の上から重要な内容を記載しています。次の内容をよくお読みになり、禁止・注意事項を必ずお守りください。

禁止



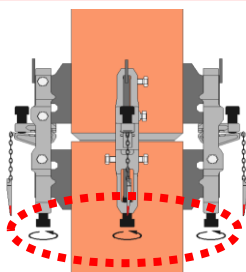
テクノスにて事前検討していない場合、ワイヤーレス工法は厳禁です。

建方エース及びエレクションピースにて柱転倒防止を行います。使用条件(強風・地震)に応じた仕様を事前に検討する必要があります。

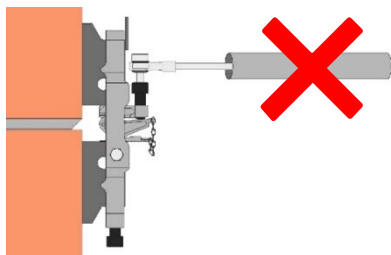


エレクションピースの装置落下防止用バーが無い状態で建方エースを吊り込まないでください。

固定ボルト(上)が緩んでいる状態で柱を吊り込まないでください。建方エースが落下する恐れがあり、大変危険です。

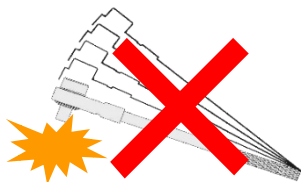


建方エースの転倒防止ボルトの締め忘れを確認せずにクレーンを解放しないでください。

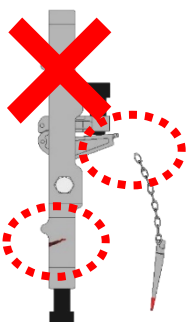


専用工具に単管パイプ等を継ぎ足しての使用は厳禁です。

無理な力を加えると、建方エースや専用工具が破損する恐れがあります。



専用工具をハンマー代わりに使用しないでください。



割れ、不具合のある建方エースは使用しないでください。

ひび割れなどの不具合が生じた建方エースの使用をやめ、至急テクノスまで連絡願います。

テクノス(株) : TEL 0533-84-1116 または 03-5228-5811

つき 安全上のご注意(ご使用前に必ずお読みください)

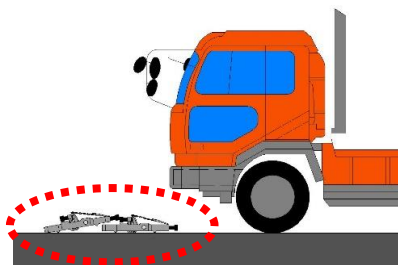
⚠ 注意

建方エース検討書

○柱 □-00x00x00
イレクション仕様
○○○○
○年○月○日
テクノス株式会社

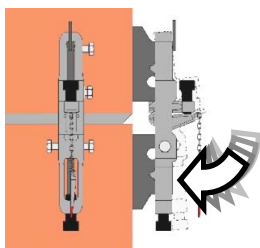
自立検討書にて指定された条件を満たしているか、
確認後使用してください。

イレクションピース仕様など。

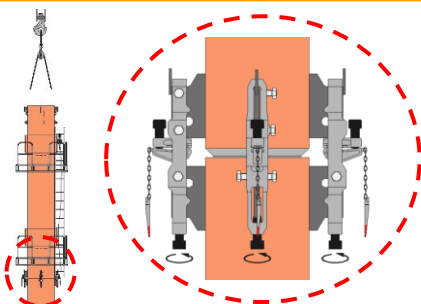


建方エースを傷付けたり、
破損しないように注意してください。

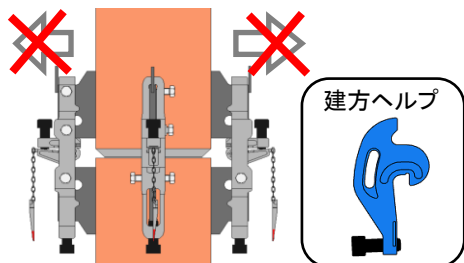
建方エースを投げたり、工事車両に踏まれるなど、
破損しないように十分注意してください。



建方エースで上下柱を繋ぐ時、
柱頭・柱脚イレクションピースを建方エースで確実に
包み込んでください。



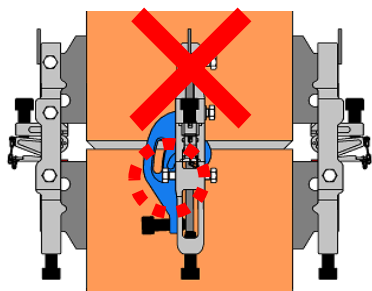
クレーン解放後、建方エースの転倒防止ボルトに
緩みがないか、確認してください。



建方エースの目違い調整機能で柱が動かない場合は、
無理な操作をせずに建方ヘルプを使用してください。

建方エース本体が変形・破損する恐れがあります。

(15t以上の柱は、クレーンでの吊り状態にて目違い調整を実施
してください)



建方ヘルプを使用する場合、
建方エースの目違い調整ボルトを緩めてください。

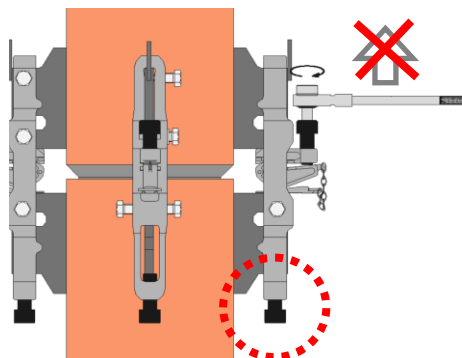
建方エース・ヘルプが相殺し、柱が動かない場合があります。

また、装置を破損する恐れがあります。

(15t以上の柱、梁入れ後の調整などは必ず建方ヘルプをお使いください)

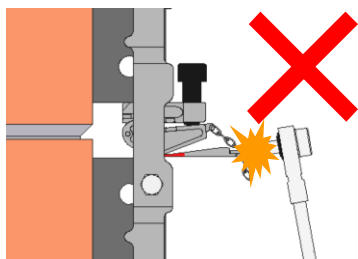
つづき 安全上のご注意(ご使用前に必ずお読みください)

⚠ 注意



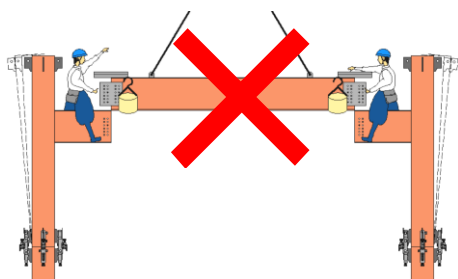
建方エースの倒れ調整ボルトを締め込む時、転倒防止ボルトを緩めてください。

転倒防止ボルトを締め込む時は、倒れ調整ボルトを緩めてから操作してください。



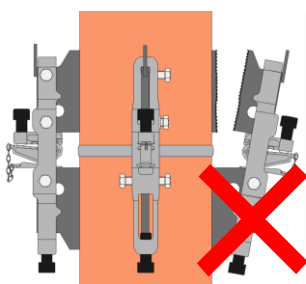
建方エースに矢板を挿入する時、矢板の赤色塗装部分が十分に入らない場合は、無理に挿入しないでください。

ハンマー及び専用工具などで矢板を叩かないでください。

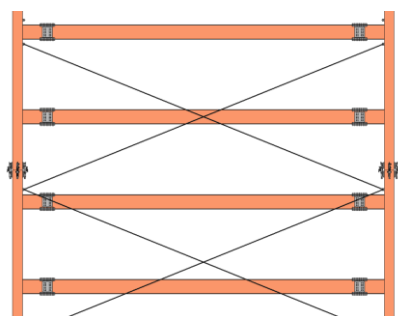


梁入れが困難な場合、建方エースで柱を固定したまま無理な梁入れを行わないでください。

建方エース及びエレクションピースに無理な力が加わり、変形・破損する恐れがあります。



エレクションピースを切断する前に、建方エースを取り外してください。

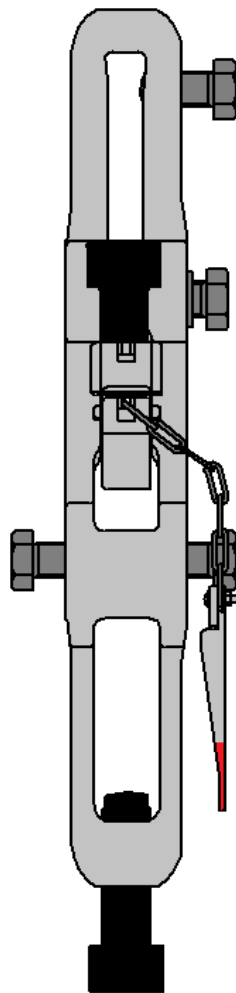


柱継手の溶接及び本締め完了前に台風のおそれがある場合は、台風養生の検討をお願いします。

(垂直ネット除去・転倒防止ワイヤー設置など)

基本セット内容

建方エース P6～

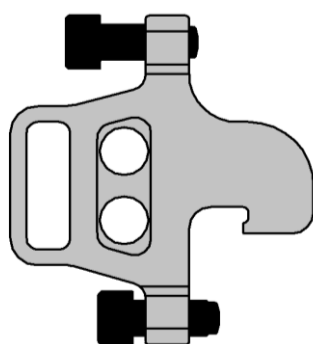


建方ヘルプ P14

ST



旧型

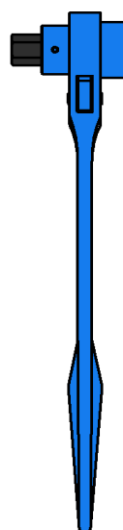


1現場につき2台標準セット。
数量変更をご希望の場合は、
営業担当にご連絡ください。

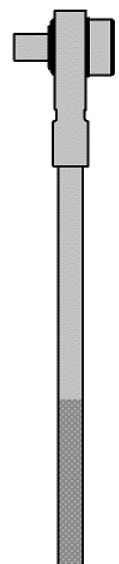
建方ヘルプは柱重量が15t以上の
場合や梁入れ後の操作時にお使いください。

専用工具 P15

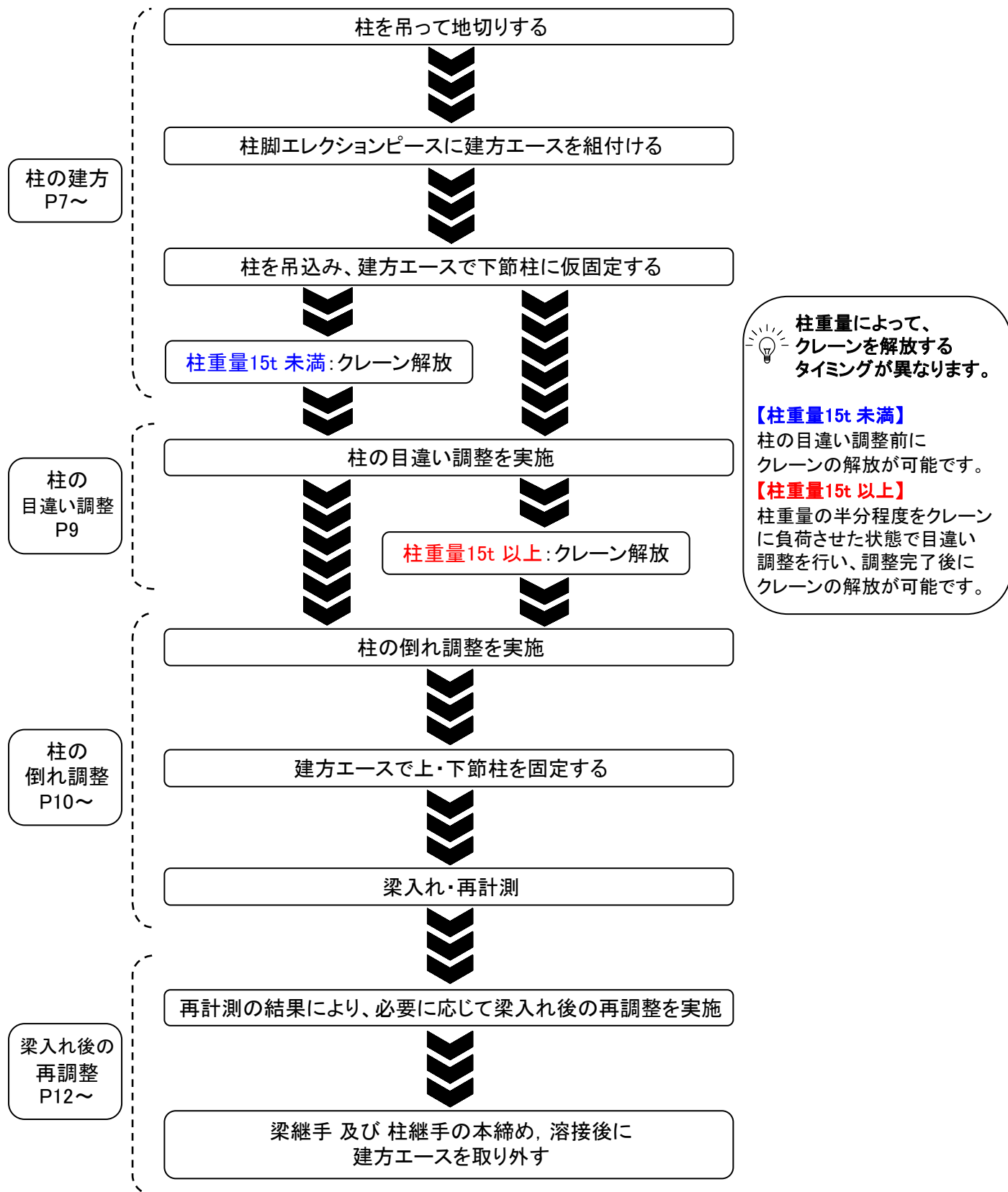
新型



旧型

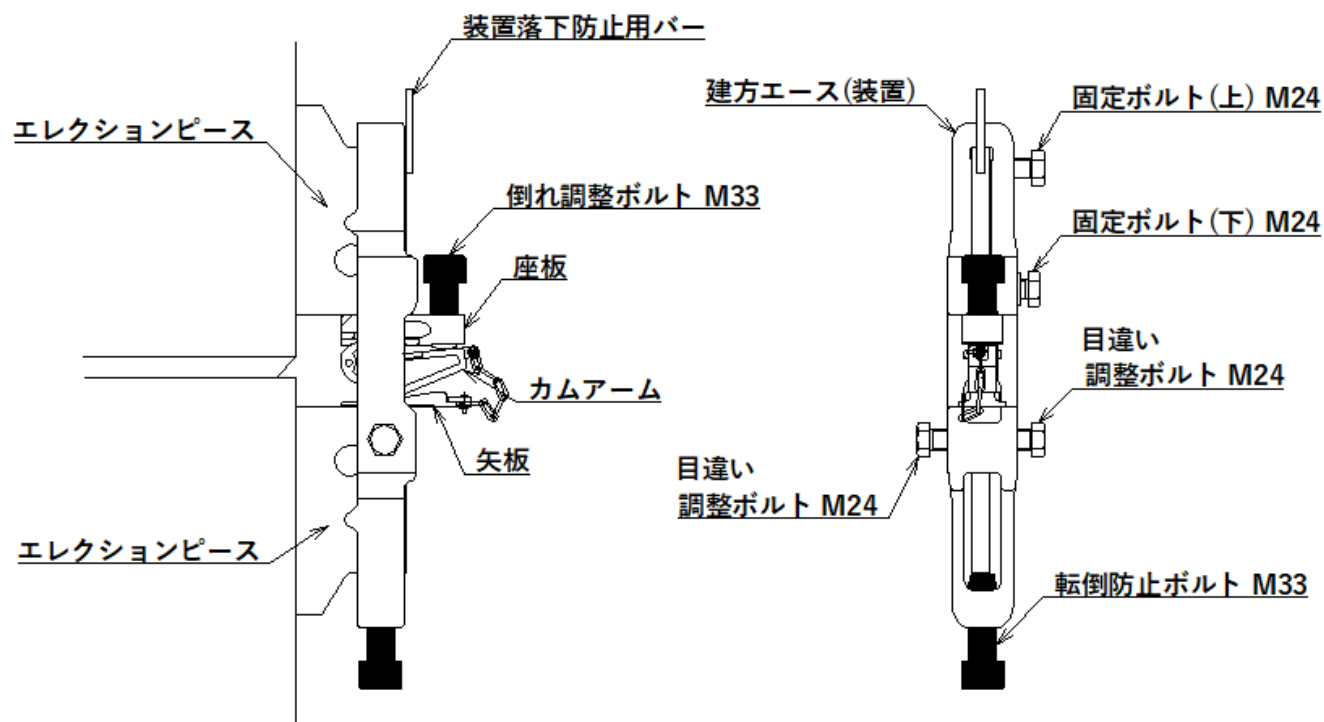


建方フロー

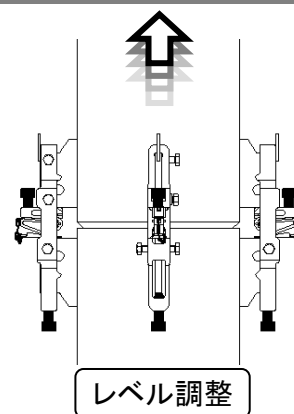
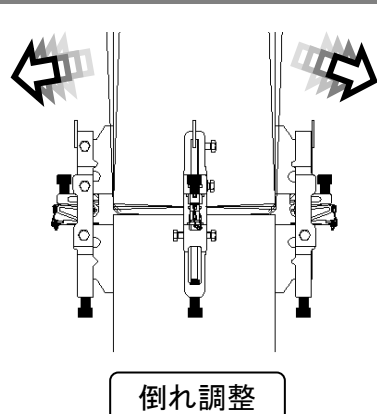
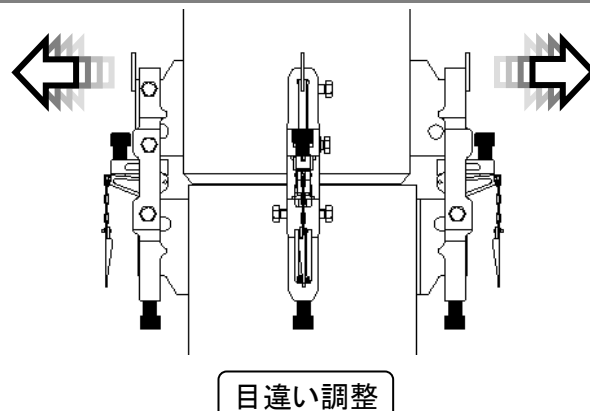
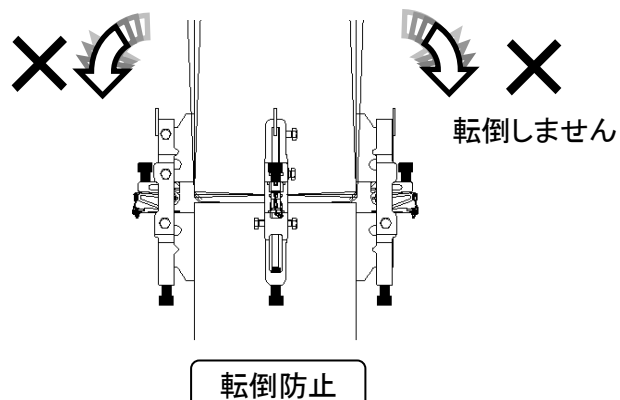


建方エース

- 建方エースは、コラム柱・丸柱・H鋼柱・PCa柱等の建方に使用する装置です。
柱のジョイント部に組付け、柱の転倒防止・目違い調整・倒れ調整・レベル調整を行います。

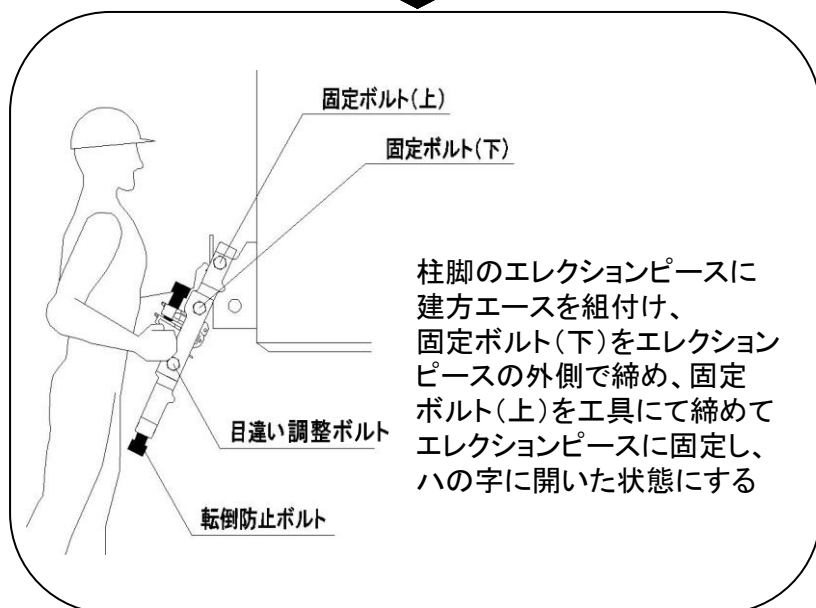


建方エース 概要図



柱の建方

柱を吊って地切りする



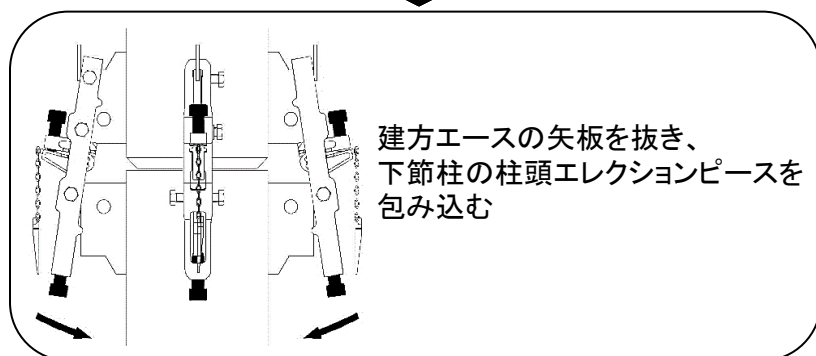
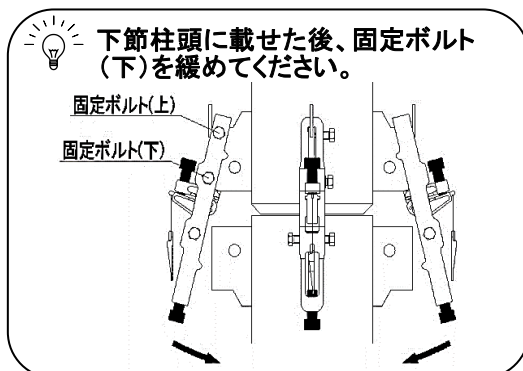
注意

- ①建方エースを組付ける前に、装置の各ボルトの動作確認を行ってください。
- ②目違い調整ボルトと転倒防止ボルトを十分に緩めてください。



注意

既存の設備に衝突しないように注意してください。



注意

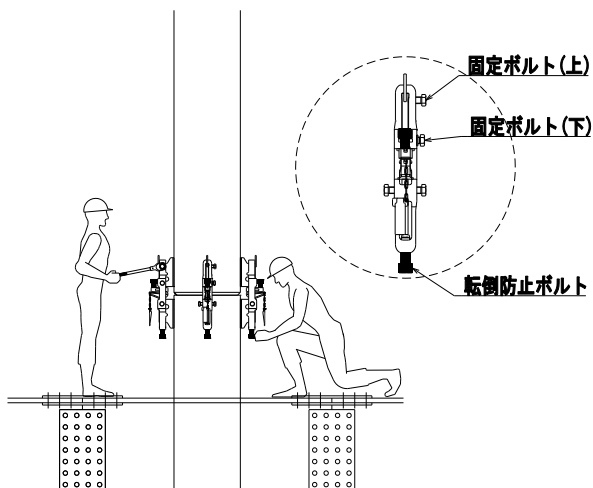
- ①矢板を必ず抜いてください。
- ②建方エースが半開き(斜めの状態)にならない様に十分包み込んでください。

次のページへ

つづき 柱の建方

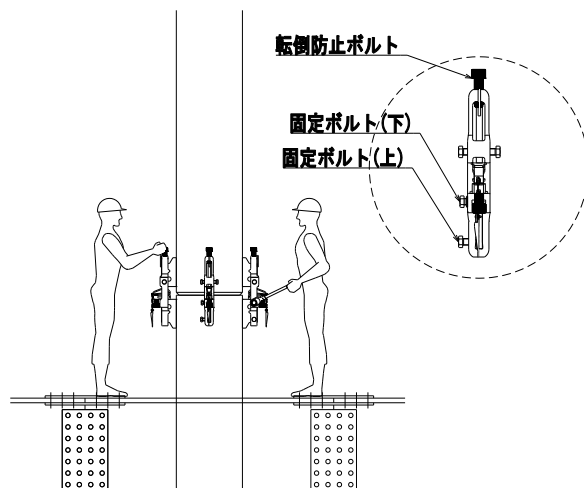


建方エース正規使いの取付方



固定ボルト(上下)を専用工具にて締付け、転倒防止ボルトを手締めして柱を仮固定する

建方エース上下逆さ使いの取付方



転倒防止ボルトを締め、下側のエレクションピースの下端と建方エースの隙間をなくし、固定ボルト(上下)を専用工具にて締付け、転倒防止ボルトを手締めして柱を仮固定する



柱重量15t未満: クレーン解放



柱の目違い調整を実施
(次ページへ)



柱重量15t以上: 柱の目違い調整を実施
(次ページへ)

💡 柱重量が15t未満の場合は、仮固定後にクレーンの解放が可能です。

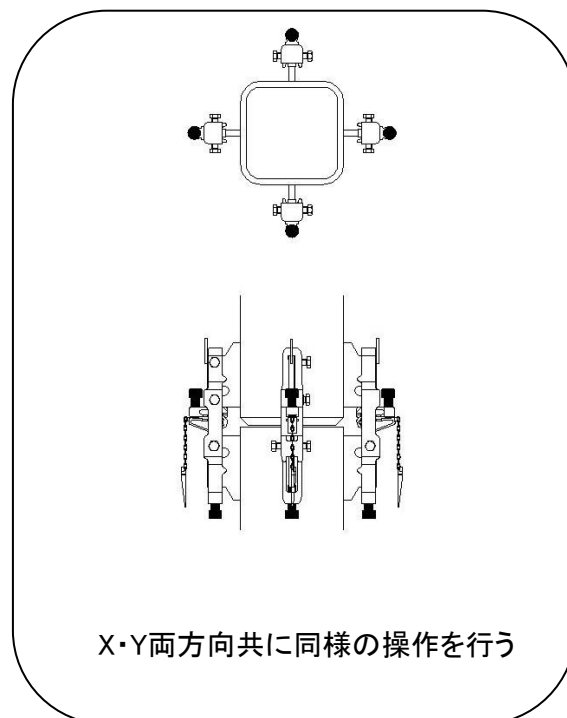
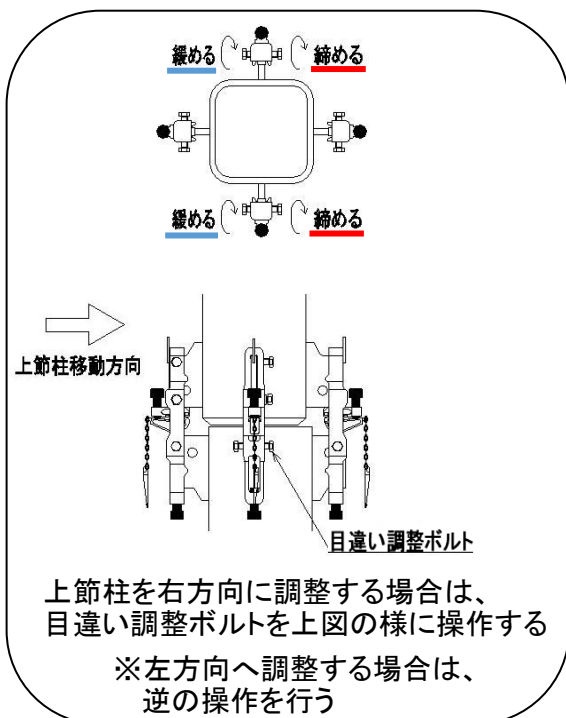


柱重量が15t以上の場合は、重量の半分程度をクレーンに負荷させた状態で目違い調整を実施してください。

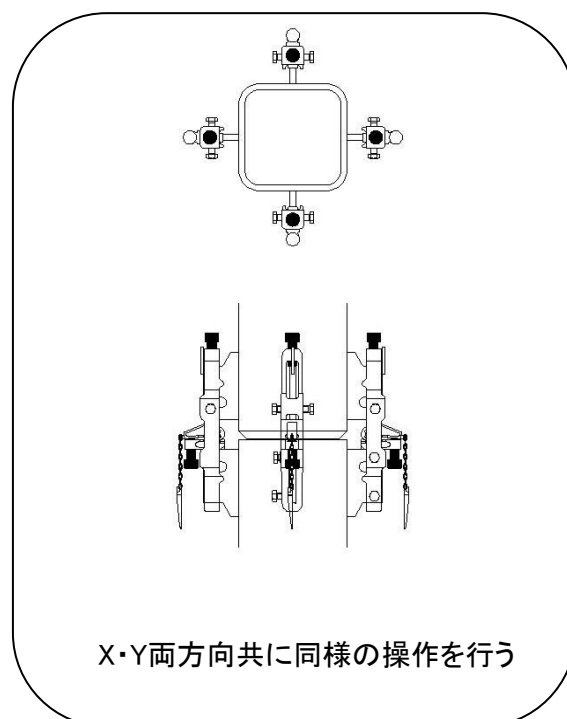
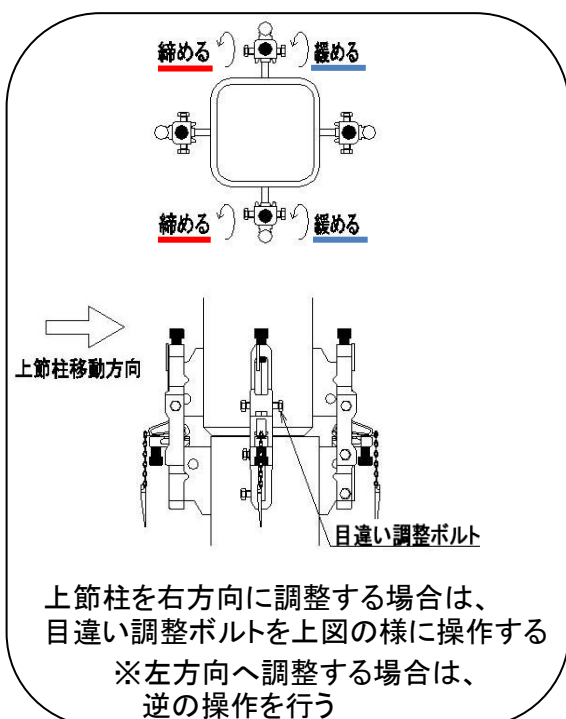
クレーン解放後に転倒防止ボルトが緩んでいないか、再度確認を行ってください。

柱の目違い調整

建方エース正規使いの場合



建方エース上下逆さ使いの場合



注意

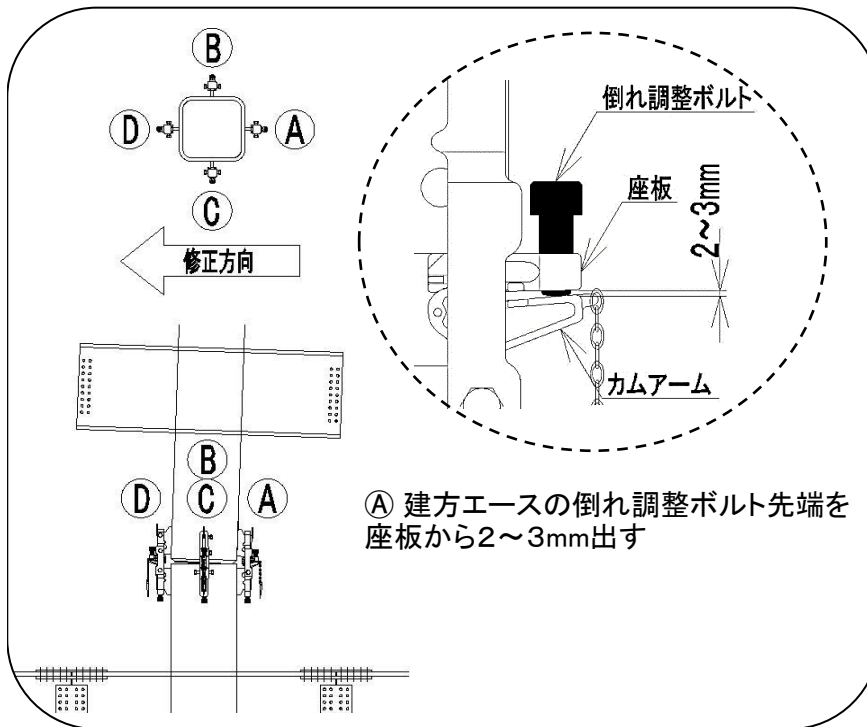
- ①目違い調整ボルトを締める際、反対の目違い調整ボルトが緩めてあることを確認してください。
- ②目違い調整ボルトを無理な力で締付けしないでください。柱が動かない場合には、強力目違い調整の建方ヘルプ(P14)を使用してください。
- ③柱重量が15t 以上の場合は、重量の半分程度をクレーンに負荷させた状態で目違い調整を実施してください。



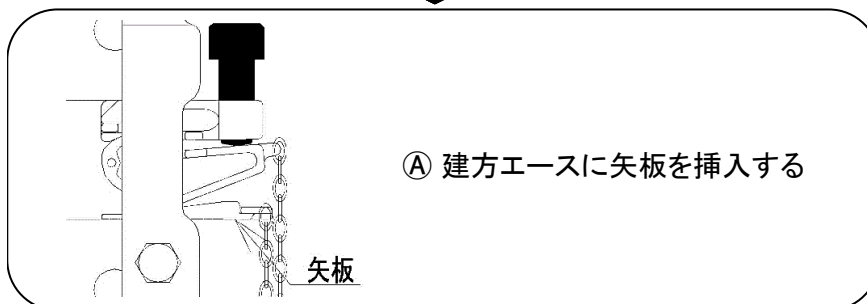
重量が15t 以上の柱も、目違い調整後にクレーンの解放が可能です。

柱の倒れ調整

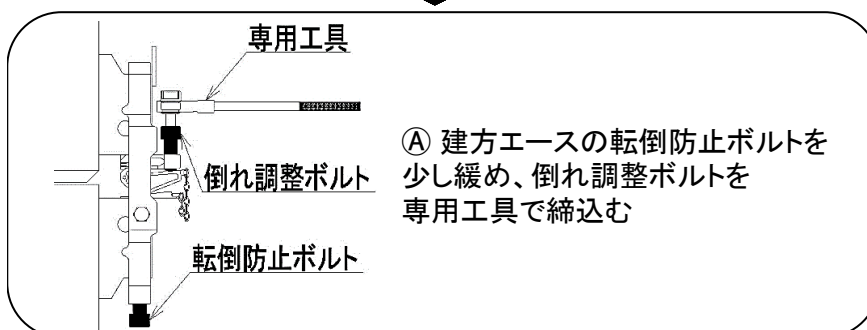
柱の倒れ調整例



X・Y方向の倒れを確認し、倒れの大きい方向から調整を行ってください。



矢板の赤色塗装部分が見えなくなるまで入らない場合は、無理に矢板を挿入せずに使用してください。

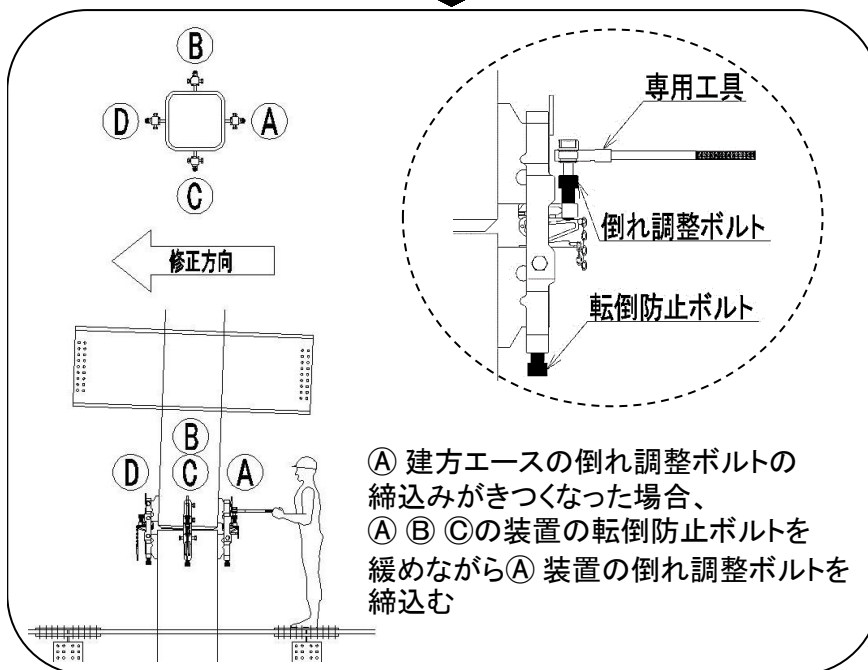


- ① 倒れ調整ボルトを締込む前に、反対側の装置の倒れ調整ボルトが緩めてあることを確認してください。
- ② 転倒防止ボルトを過度に緩めないでください。

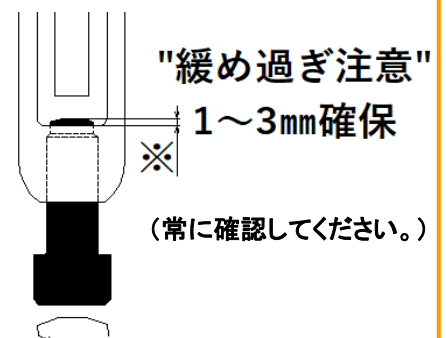
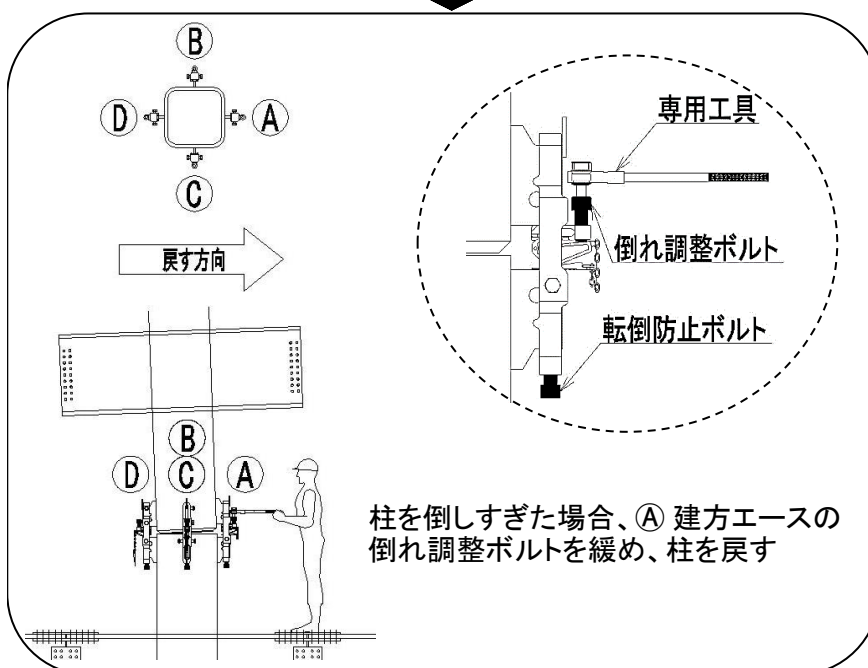
柱の倒れが修正される

次のページへ

つづき 柱の倒れ調整



インパクトレンチで操作する場合は、振動によるボルト類の緩みが発生する恐れがあるので、10秒以上の連続運転はしないでください。使用毎にボルトの緩みを点検してください。



④ 建方エースの倒れ調整ボルトを締込み、柱を戻そうとしないでください。
※柱が浮き上がります。

X・Y両方向の倒れ調整終了後、全ての建方エースの矢板を挿入

全ての建方エースの各ボルトを専用工具で軽く締める(仮固定)

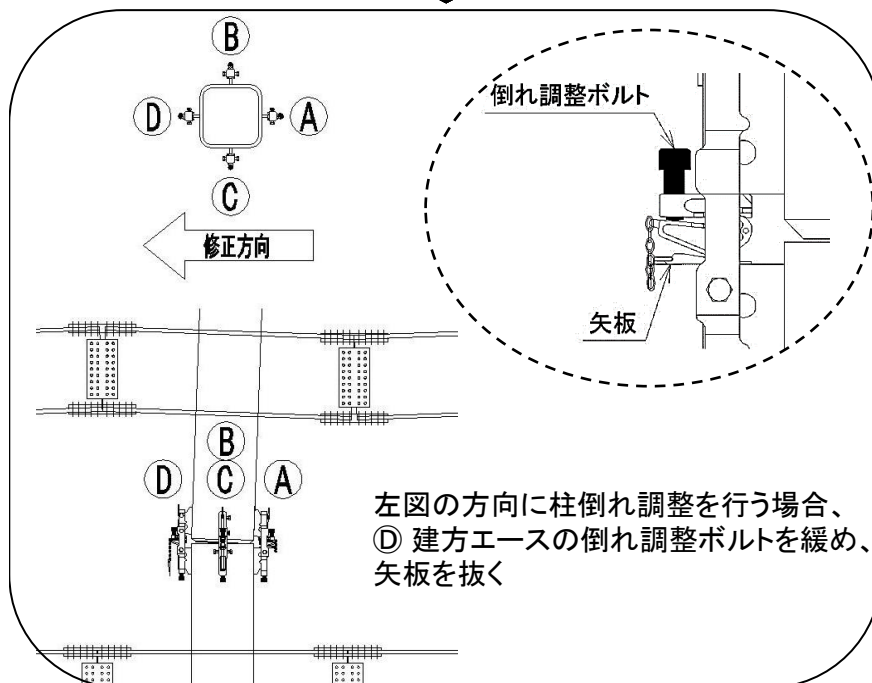
梁入れ

次のページへ

梁入れ後の再調整

梁入れ後の再調整例

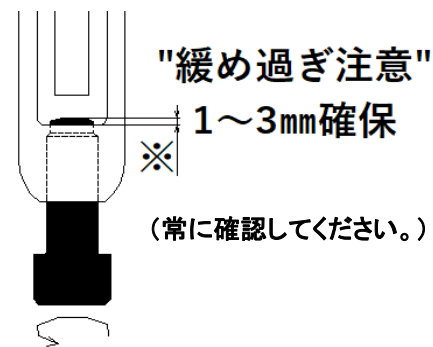
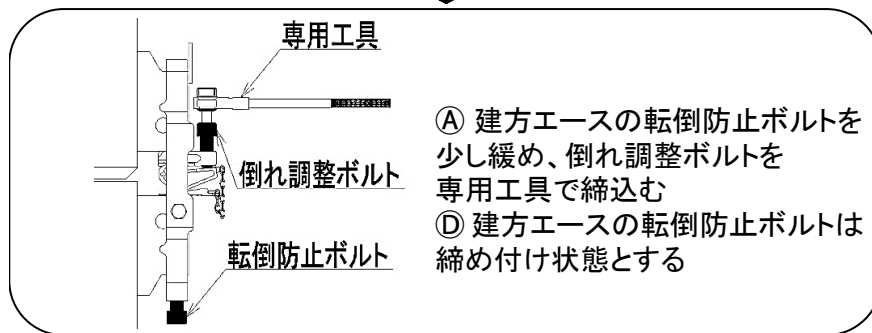
梁入れ後の柱の目違い調整は、建方ヘルプを用いて行う
(建方ヘルプ P14)



注意 梁入れ後の再調整は、連動する柱を同時に同方向へ調整してください。



インパクトレンチで操作する場合は、振動によるボルト類の緩みが発生する恐れがあるので、10秒以上の連続運転はしないでください。使用毎にボルトの緩みを点検してください。



柱の倒れが修正される

X・Y両方向の倒れ調整終了後、全ての建方エースの矢板を挿入する

柱のレベル調整必要なし

柱のレベル調整必要
(次のページへ)

終了

全ての建方エースの各ボルトを専用工具で軽く締め、固定・保持させる



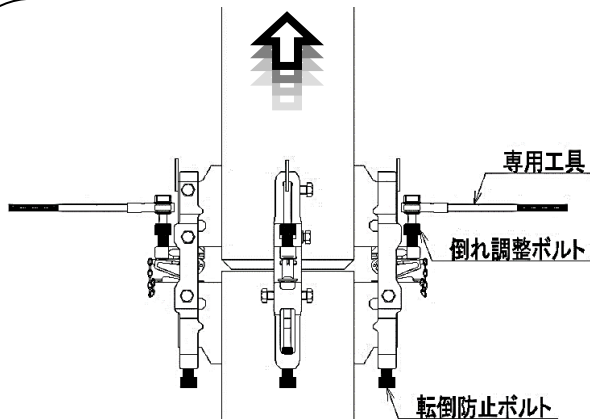
建方エース取り外しについて
梁継手及び柱継手の本締め、溶接完了後に建方エースの取り外しが可能です。
在来工法のエレクトロンピースを溶断するタイミングと同様です。



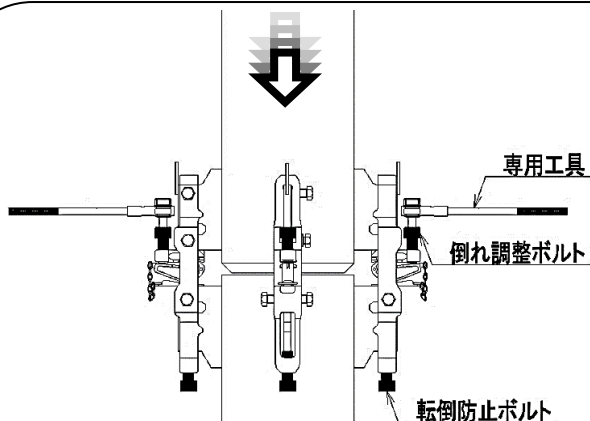
建方エースを取付けたままの状態でもエレクトロンピースを切断しないでください。

柱のレベル調整

柱のレベル調整例



上節柱を上げる場合、全ての建方エースの
転倒防止ボルトを緩めながら、倒れ調整ボルトを
締込むと、上節柱が上昇する



上がり過ぎた柱を下げる場合、全ての建方エースの
倒れ調整ボルトを緩めながら、転倒防止ボルトを
締込むと、上節柱が下降する



柱のレベルが修正される

終了

全ての建方エースの各ボルトを専用工具で軽く締め、固定・保持させる

💡 建方エース取り外しについて

梁継手 及び 柱継手の本締め、溶接完了後に
建方エースの取り外しが可能です。
在来工法のエレクションピースを溶断する
タイミングと同様です。



注意

建方エースを取付けたままの状態
でエレクションピースを切断しないでください。

インパクトレンチで各ボルトを緩める場合は、
ボルトが落下する恐れがあります。
落下に十分注意して操作してください。

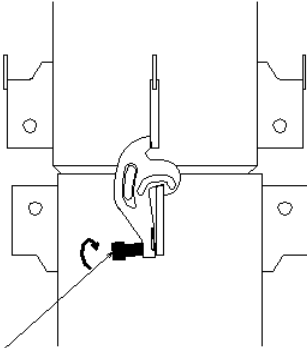
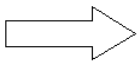
建方ヘルプ

- 建方ヘルプは、強力目違い調整用の装置です。
建方エースの目違い調整機能だけでは不十分な場合に使用します。(梁入れ後の調整など)

建方ヘルプST

<建方ヘルプの取付>

上節柱
移動方向

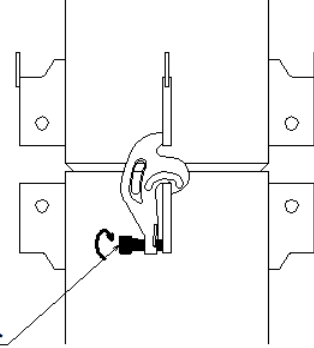
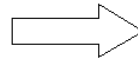


目違い調整ボルト

柱頭エクステンションピースに建方ヘルプSTを掛け、
固定する

<目違い調整>

上節柱
移動方向



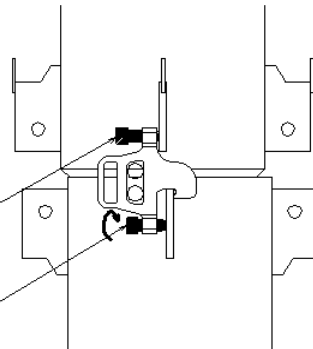
目違い調整ボルト

目違い調整ボルトを締込むと上節柱が移動し、
目違いが修正される

建方ヘルプ旧型

<建方ヘルプの取付>

上節柱
移動方向



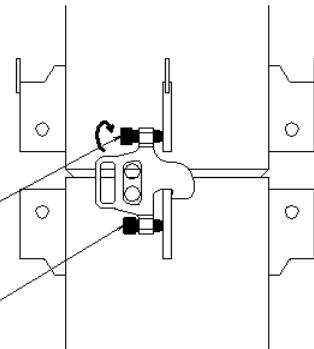
目違い調整ボルト

固定ボルト

柱頭エクステンションピースに建方ヘルプを掛け、
固定ボルトを締めて装置を固定する

<目違い調整>

上節柱
移動方向

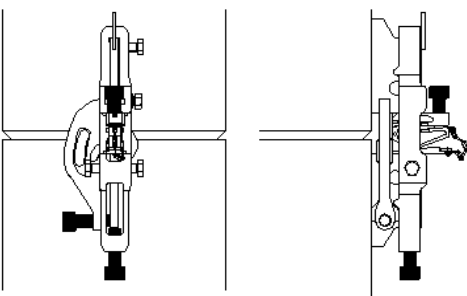


目違い調整ボルト

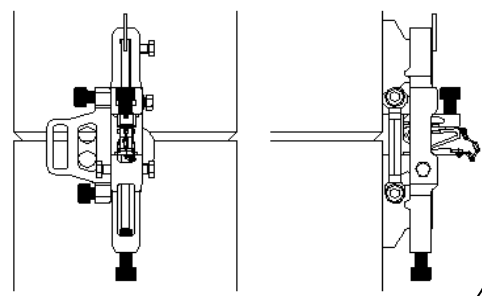
固定ボルト

目違い調整ボルトを締込むと上節柱が移動し、
目違いが修正される

ST



旧型



建方エースの
奥に建方ヘルプを
設置します。



注意

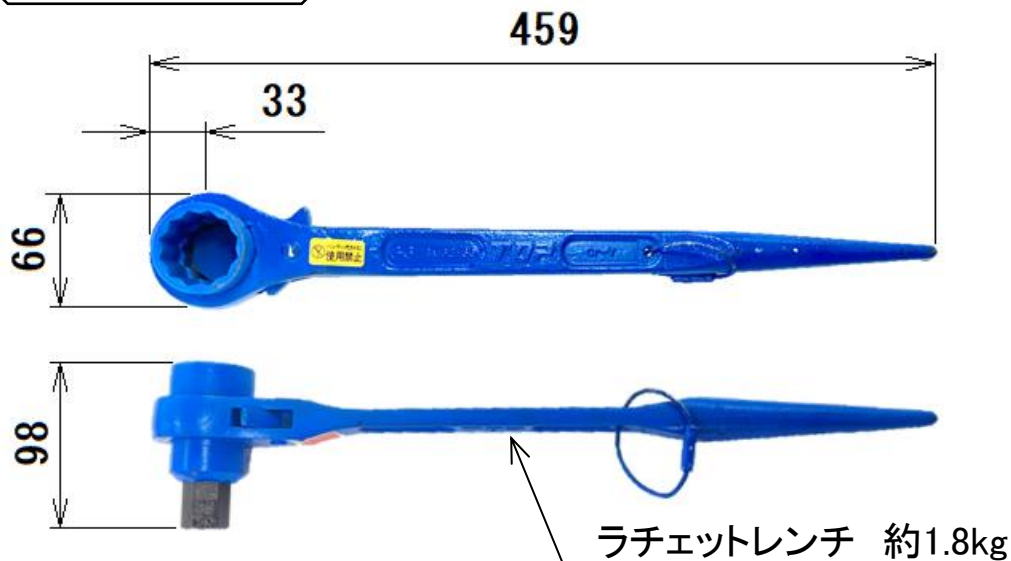
建方ヘルプで目違い調整を行う前に、建方エースの目違い調整ボルトが
十分に緩めてあることを確認してください。

建方エース専用工具

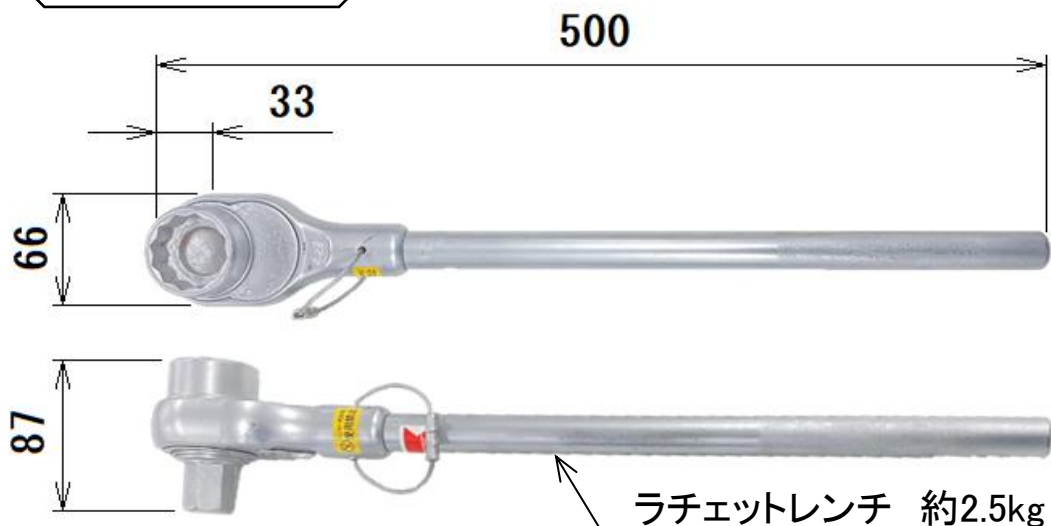
- 建方ベースにも使用できます。但し、エクステンションジョイント(延長棒)の併用はできません。

1ノッチ: 約15°

新型専用工具



旧型専用工具



御不明な点がございましたら、当社まで御連絡ください



テクノス 株式会社
建築仮設事業部

Web: <http://www.technos.info>

Email: eigyo1@technos.info

◆ 本社 ◆

〒442-0061
愛知県豊川市穂ノ原2-1

TEL: 0533- 84- 1116
FAX: 0533- 84- 1234

◆ 東京事業所 ◆

〒162-0824
東京都新宿区揚場町2番20号 嶋田ビル6F

TEL: 03- 5228- 5811
FAX: 03- 5228- 1182